

高齢者向け「みんな元気クラブ」の様子



私どもの施設では、クッキーの製造や下請け作業などで収入を得る仕事をしています。新しい下請けの仕事を探すとすると、一般企業に話を持って行くのですが、知的障がいという言葉が聞くと企業が引いてしまいがちです。その壁をどう取り除くかが

松下さん

と感じています。このようなお互いを知る場がたくさんで思っています。



渡邊さん

私は、精神に障がいがあるけど一般の企業で働きたいという希望を持っている方の支援をしています。利用者の方が作業を通じて就労に必要な力をつけて変化していく姿を見ることに一番のやりがいを感じます。

認知症への対応はコミュニケーションに時間をかけ、信頼関係を作るところから始めなければならぬということがあります。

福祉というのはドアがたくさんあつて、いろいろな取り組みがあります。「福祉の思い」とか、福祉の底辺にあるものを、何とか訴えるのが、今回の「みんなでふくし大作戦」の目的のひとつにあります。今それぞれの仕事やボランティアを通じて感じていることの中で、コミュニケーションの必要性や障がいに対する壁を取り除くということは、苦小牧だけではなく、これからの福祉には必要な問題提起だと思えます。

市長

私は介護福祉士の資格を取り、かしわぎ園に勤めています。仕事で最初に苦しんだことは、介護の技術があつても、利用者とのコミュニケーションが取れないと、それを提供できないことです。介護の世界で大切なのは、介護を提供する職員も必要ですが、その前に自分の心を開きつつ、その方の心に入っていくことが大切です。それができて利用者から感謝の言葉を言われた時、やはり福祉に来てよかったと思う瞬間です。



遊佐さん

今の課題です。しかし、企業に「こんなにはできるとは思いませんでした」と言われたときは本当にうれいんです。こういうやりがいを感じる部分が福祉ではないでしょうか。

Thema ② ふくしの心 ~あいさつによる地域での連帯感~

施設がある地域では総合福祉会館を拠点として、町内会がとても積極的に地域活動をしています。その理解と協力のもとで、私たちも地域の方と触れ合う機会を設けていただいで活動に参加しています。



渡邊さん

問題は核家族化や都市化が進み地域とのつながりが薄れているということです。僕自身も、病院に入院したいけれども、保証人がいない」という相談を受けます。これからのまちづくりの鍵は、人と人のつながりが生み出す力や、地域に住む人たちの活力だと思えます。地域の人と人を結ぶネットワークを広げる活動が重要で、明るい未来を創るには、身近なところから温かい人間関係を築く以外にはないと思えます。人のために行動できる人をどれだけ増やせるかが、地域の連帯感につながると考えます。

谷川さん

地域やコミュニティ、市で福祉を効率的に効果的に進めるためには、当事者だけではなく、みんなの連帯感が必要になると考えています。地域で子どもからお年寄りまでのすべての人が、福祉への思いを持つために必要な取り組みについて、意見や実践していることなどがあれば聴かせてください。

市長

福祉の問題を考えていく場合には、やはり地域での心のつながりのよう

市長

地域とどうつながるかは、協力者にはさらに手を借りて、施設や障がい者知らない人をいかに巻き込んでいくかが課題になると思えます。育成会では年に1回祭りを開催していますが、その中でゲームなどをすると、皆一体となつて分け隔てなく楽しんでいます。そういうイベントが市内各所で開催されるとつながりが生まれ、垣根が消えていくと思えます。また、継続していろいろな方が参加してくれる方法を生み出す必要もあると思えます。そうすれば、各分野の福祉施設も自然に連携して、企業、個人、施設、障がい者も全てがつながっていくと思えます。

松下さん



地域の連帯感を高めるには、分野や垣根を越えて参加できるイベントなどの企画や実行と一緒に携わり、一体となつてやり遂げることで、よりつながりが深まると考えています。

車いすバスケットボールの様子



福祉を語ろう！

~福祉関係者と市長が対談しました~

昨年11月18日に福祉関係者と市長が語るふれあいミーティングを開催しました。福祉の現場での思いや昨年から始まった『みんなでふくし大作戦！』、未来の苦小牧の福祉の姿について皆さんの意見を聴かせていただきましたので紹介します。

詳細 市民自治推進課 ☎32-6152  
社会福祉課 ☎32-6356

ふれあいミーティング参加者

- 障害者支援施設 樽前かしわぎ園 遊佐 真知子さん
- NPO法人苦小牧市手をつなぐ育成会ワークセンター-ふ「ひので」- 松下 和弘さん
- 社会福祉法人せらび就労支援センターまるにえ 渡邊 直美さん
- 地域包括支援センター連絡協議会三光地域包括支援センター 谷川 功一さん
- 苦小牧高等商業学校ボランティア部 秋山 知子さん
- 社団法人苦小牧青年会議所 藤田 健次郎さん
- 苦小牧市長 岩倉 博文



Thema ① 福祉の体験談

本日はお忙しい中ふれあいミーティングに参加いただきありがとうございます。今回は福祉をテーマに、皆さんとお話をしたいと思っています。まずは皆さん福祉やボランティアの現場に携わっているわけですが、やりがいや苦労などを含めて、福祉の体験談を聴かせてください。

市長

以前に病気で入院した時に、いろいろな人に助けていただいた。その生活を取り戻しました。その代わりに自分も何かしたいという気持ちになりました。これがひとつの「福祉の心」なのかなと思っています。また、阪神淡路大震災の時にボランティアとして神戸でお手伝いをしました。最初、被災者の皆さんは行政に対する要望が多かったのですが、次第に自分たちで復興するんだという機運が出て、ボランティアと一緒に復興に尽くすようになったことも福祉であると考えています。



藤田さん

私は小さい頃から介護士になりたいと思いき、授業の一環でヘルパーの3級の資格を取り、今年の夏休みに2級の資格も取得しました。実習で施設に行つて車いすを押しての介護体験や入浴介助をしましたが、やりがいがあり、介護に取り組みたいという意欲がさらに湧いています。学校ではボランティア部に所属していますが、活動をすると話しかけてくれる人がたくさんいて、とても励まされるので、コミュニケーションをたくさん取って行くことが福祉の分野には重要だと感じています。

秋山さん

福祉というのは10人に「福祉って何？」と聞いたら10通りの福祉があると思えます。身の回りのこと、あるいはそれぞれの分野の福祉があるのではないのでしょうか。意欲を持って何かをしてあげたいということも「福祉の心」になるのではないかと。

市長